

静岡県

平成28年3月15日

読書活動だより.66

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246



今なら、今から

静岡県読書推進運動協議会副会長
静岡県立中央図書館長
河原崎 全

2015年の出版物の推定販売実績が出版科学研究所から1月下旬に発表されました。全体では2005年以降11年連続で減少、対前年比5.3%減、特に雑誌類の低迷が激しいとのこと。私は10年ぶりに電車通勤していますが、ウェブからの情報収集が主流となったためか、確かに雑誌や新聞を読む人をほとんど見かけません。ボックス席で周囲を気にしながら新聞を読んだ頃が懐かしく思えます。昨今は、図書館の資料費減額や利用者の固定化、小規模書店の相次ぐ閉鎖(書店のない市町もあります)、出版社・取次会社の倒産・合併など、本に関して寂しい話題が続きます。

その一方で、よく立ち寄る大規模書店は賑わっていますし、読書が好きと答える小中学生の割合が本県では7割を超えて増加中という報告もあります。先ほどの車内でも、図書館から借りた単行本、書店のカバーのかかった文庫本や新書、資格取得のための専門書などに熱中している人は、スマホ全盛と言われながらもけっこういます。ピブリオバトルも学校や図書館などで行われ始めていますし、書店員さん有志による静岡書店大賞も4回を数え、年々盛り上がっています。

私は現在、約80万冊の蔵書に囲まれています。自宅の本は多くが小説ですが、図書館にはバランス良く、あらゆる分野の本や雑誌があります。書架点検や排架

の折には、様々な本の存在を知ることができますし、興味深い本も目眩がするほどたくさんあります。おかげで小説以外の本を読むことも増えました。新聞の書評欄や書籍の宣伝広告、ネットで検索・購入した時の関連本の紹介なども、読書への刺激を与えてくれます。私たちの行動は環境によって左右されるようですが、読書に関して言えば、現在の私はその影響をかなり受けているように思います。

最近、出版文化の今後や国民の情操・教養を心配する声をよく耳にします。言わずもがなですが、これには読書が大きく関連しています。本県では、県教委を中心に「読書県しずおか」づくりを目指し始めて、10年余りが経過しました。各方面の方々が地道に様々な仕掛けづくり(その気にさせる雰囲気醸成)に取り組んでいます。目に見える成果を得ることは簡単ではありませんが、こうした活動がなければさらに厳しい状況になっていくでしょう。私も微力ですが、まずは自分自身が読書を楽しむことを大切にしながら、読書推進を意識していきたいと思っています。

年の始めの新聞のコラムです。「『今さら』と諦めることなく、『今なら』間に合うかもしれないから、『今から』始めてみよう」(読売H28.1.3)。

《内容紹介(もくじ)》

◎巻頭言

(静岡県読書推進運動協議会副会長 河原崎 全) … 1

◎静岡県図書館大会・大人の読書活動分科会報告 … 2

◎平成27年度 優良読書グループ紹介

★(公社)読書推進運動協議会長賞(全国表彰) …… 2
朗読グループ かざぐるま(焼津市)

★静岡県読書推進運動協議会長賞(県表彰) …… 3
おむすびクラブ(富士市)

東小とんことり(富士宮市)

しろやま読み聞かせクラブ(島田市)

おはなしクラブ(牧之原市)

おはなしの会赤いローソク(袋井市)

小山町立図書館ボランティア おはなしポケット(小山町)

◎静岡県読書推進運動協議会講演会報告 …… 4

◎静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告 … 4

◎推薦図書 …… 4

静岡県図書館大会・大人の読書活動分科会報告

平成27年11月9日(月)グランシップにて、第23回静岡県図書館大会が行われました。

今年はチェコ語を含める東欧の研究者、阿部賢一先生(立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻准教授)に「世界は言葉でつながっている ～翻訳現場の最前線～」をテーマにお話いただきました。

まず、はじめに、阿部先生ご自身の幼少期の読書体験、一冊の本で外国語へ開かれていく過程、チェコの首都プラハでの図書館体験などを話されました。

チェコ語を例に、スライドショーでヨーロッパの地図や数々の本の紹介を通して、言語の深層にある文化・歴史・地域性の理解の重要性を伝えてくださいました。次に、こうした理解を踏まえた上で、翻訳の奥深さと言語の広がりへと導いていただきました。例えば、有名な『夕鶴(鶴の恩返し)』の鶴は女性のイメージですが、チェコ語で鶴は男性名詞になります。可憐な鶴のイメージをチェコの文化・歴史など勘案しつつ探り出し、幾つかの単語の中から「青鷺(あおさぎ)」に決定されました。そこには翻訳が持つ、世界を世界に移し換える複数の形が現れています。

世界を世界に移し替える複数の形は、読書活動そのものです。筆者の持つ世界を文字に現し、読者が各々の心で自らの世界に置き換えていく。その形は複数であります。日本語の中の世界の置き換えだけでなく、翻訳という言語間を通した世界の置き換えを、さりげなく分かり易く御講演くださいました。

分科会終了後のアンケートでは「翻訳の広がりや面白さ」を書かれる方が多くおられました。



平成27年度 優良読書グループ紹介

(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【朗読グループ かざぐるま(焼津市)】

昭和52年に、図書館をよく利用している母親たちが集まって、かざぐるまの前進となる「かっちゃん玉」を結成しました。当初は、図書館の廊下にごさを敷いて読み聞かせをしていました。平成2年に現在の名前に改称しましたが、結成以来の子どもたちに本好きになって欲しいという思いは、今も変わっていません。

現在の主な活動は、焼津図書館の「土曜お話し会」で、絵本の読み聞かせや紙芝居の上演、手遊び等を司書の方と行うこと、小学生向けの朗読会を行うこと、図書館の「子どものつどい」で、約半年の練習を費やした人形劇を上演することです。他には、小学校でのお話し会も、平成2年以来25年間続いています。小泉八雲記念館ができてからは、八雲の作品の朗読会も依頼されて行うようになりました。大人向けの朗読会も不定期ですが開催し、藤沢周平や阿刀田高・星新一・向田邦子等の作品を群読という形で上演してきました。

時代は変化していますが、お話しを聞いてくれる子どもたちの姿は変わらず、喜んでくれる子どもたちに毎回元気を貰い、人形劇も楽しかった・怖かった・また来年も観たい等のアンケートの言葉に励まされ、より良い物を作ろうという気持ちにさせられます。見たり、聞いたりしてくださる方たちに支えられて、活動が続いているように思います。練習は、毎週金曜日の午後に行っています。

現在のメンバーは、50代～70代の10名で、創設当時からのメンバーも2名おり、平均年齢は、年々上がって行くばかりですが、少しでも長く皆さんに喜んで頂けるような朗読を行っていききたいと思います。

(代表 西岡 いづ子)



静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

【おむすびクラブ(富士市)】

子どもと本のむすび役になれたらと願い、平成6年に発足、当初2名で始めた本会の活動も20年を越えました。同じ志を持つメンバーが徐々に集まり、現在17名、週2日の活動で富士市立丘小学校全学年(27クラス)の読み聞かせに入っています。選書の大切さを思い、平成22年から始めた本の勉強会(おむすびサロン、月1回)は、一冊一冊を読み合い聞き合うことで多くの本を知る貴重な機会であり、また仲間と共に一冊の本、同じ時間を共有できる楽しい学びの場となっています。



他に未就園児対象のおはなし会(年12回)、家庭教育学級の講座(年1回)等を実施する中で、これからも地域との繋がりを大切に活動していきたいと考えています。

(代表 秋山 恵子)

【しろやま読み聞かせクラブ(島田市)】

今年で11年を迎える「しろやま読み聞かせクラブ」の特徴は何と言っても大きな手作り紙芝居です。

畳一畳敷きのダンボールに、昔話などを描いていきます。読み聞かせは、地域の高齢者・小学生(低学年)・地域スタッフ(中間世代)による「地域ふれあいサロン」の場で行われるので、なるべく大きく見えやすいものを描いていきます。

この事業を通じて地域全体に心の豊かさや、安らぎを提供できると共に、子どもたちが顔を覚えてもらい、日頃の安全教育にも繋がっていきます。

更に、子どもたちの歌声や握手等により高齢者の瞳も輝いてきます。



この受賞を励みに、地域全体で子どもたちの生きる力を養い、見守る中での読み聞かせを、メンバー全員で頑張っており、取り組んでいきたいと思っています。(代表 杉本 章子)

【おはなしの会赤いローソク(袋井市)】

「おはなしの会赤いローソク」は昭和56年に旧袋井市立図書館で図書館ボランティア活動を目的として集まったメンバーの中から読み聞かせグループとして独立し、翌57年に発足しました。メンバーの交代も行われてきましたが、活動は今年で33年目になります。現在会員数は14人です。袋井図書館で毎週日曜日に行われている幼児から小学校低学年対象の「おはなし会」の開催に協力しているほか、年1回「クリスマスおはなし会」を会のメンバー全員で実施し、図書館主催で夏休みに市内の寺院で行う「緑陰おはなし会」の開催に会の創設時から協力しています。



これからも、図書館と連携して子どもたちと本をつなぐ活動を長く続けていきたいと思っています。

(代表 小島 康代)

【東小とんことり(富士宮市)】

平成10年、学区内にある東幼稚園卒園のこどもを持つ母親を中心に結成し、当初8人のメンバーで1～3年生のみに読み聞かせを行っていました。平成19年からは、PTA活動の一環となりメンバーが増え、現在44人で全学年への読み聞かせ・語りを行っています。

また、講座・講演会・富士宮こどもと読書の会にも参加し、読み聞かせや語りの技術・知識の向上に努めています。今回の図書館大会での表彰は、メンバーにとってとても大きな励みになりました。ありがとうございました。

今後子どもたちの心に残る、楽しい読み聞かせの時間を届けることができるように、活動を続けて行きたいと思っています。

(代表 渡辺 亜矢子)



【おはなしクラブ(牧之原市)】

おはなしクラブは、素話の講座を受講したお母さんたちが平成6年に発足させました。牧之原市内の榛原地区にある小学校や幼稚園で、朝読書等の読み聞かせを年間50回程行っています。また、大人のためのおはなし会として「夏の夜のおはなし会」等を開催しています。素話のレパートリーは会全体で約30種類です。素話は聞きなじみがないと言われる時もありますが、聴衆が物語の世界に引き込まれていく魅力があるからこそ、私達はあくまで素話を中心とした活動にこだわっています。そして、勉強会や会員個人の活動を通して、一風変わった面白い活動につながることを目指しています。

今後もその姿勢を大切に活動を続けていきたいと考えています。

(代表 大石 尚美)



【小山町立図書館ボランティア

おはなしポケット(小山町)】

町立図書館付ボランティアとして、23年目に入りました。現在20名で「線香の煙の如く細く長く」をモットーに、出来る人が出来る時に精一杯やる事を心掛けています。

毎週土曜日のお話会を中心に、子ども読書の日、年2回の夜のお話会、生涯学習フェスティバル等、図書館中心の活動と共に、出張お話会として、保育園、幼稚園、小中学校、介護施設、町のイベント等、要請に応じて出掛けています。

お話会は、読み聞かせを軸に、素語り、朗読、手作り人形劇、影絵、紙芝居、ブラックシアター等、場に応じた内容にしています。

子どもたちが本に親しみ心豊かに育ってくれることを願い、活動を続けていきたいです。

(代表 湯山 峯子)



静岡県読書推進運動協議会 講演会報告

平成28年2月13日(土)、静岡県立中央図書館において、常葉大学短期大学部助教の宮本淳子先生による講演会「人生を絵本とともに～大人にこそ絵本を～」が行われました。

講演会では、『キャベツくん』(長新太/作・絵、文研出版 1980年)、『かあさんのところ』(内田麟太郎/作、味戸ケイコ/絵、佼成出版社2005年)、『はじまりのはな』(マイケル・J・ローゼン/文、ソーニャ・ダノウスキ/絵、蜂飼耳/訳 くもん出版 2014年)など、9冊の絵本を元ラジオパーソナリティでもある宮本先生が朗読され、大人ならではの視点で解説をされました。

参加者からは「声がとても素敵で引き込まれた。」「大人になっても子どもの絵本でこんなに感動し、考えさせられることに初めて気づいた。」「絵本を大人の視線で読みとく面白さを知りました。」「絵本の様々な魅力を知ることができました。」「2時間が短く感じられた。」などの声が寄せられ、大変好評でした。



静岡県読み聞かせネットワーク 全体講演会報告

主催：静岡県読み聞かせネットワーク

会場：静岡県立中央図書館

日時：平成27年11月8日(日)

演題：「すべての子どもたちに読書のよろこびを
～点字つき絵本ができるまで～」

講師：北川 吉隆氏 (株)小学館 図鑑NEO編集長
中村 悠子氏 (株)福音館書店月刊誌編集部
関谷 裕子氏 (株)こぐま社編集部
千葉 美香氏 (株)偕成社編集部

今回この「テーマ」に魅かれ、会場は深い関心をお持ちの方々でいっぱいになりました。子どもの思いが母親や女性の心を動かし、点字つき絵本が生まれたきっかけ、出版するまでの製本上の工夫、絵本の原作者の理解を得たり、価格など採算性の不安要素がある出版をいかに実現したかなど、ご苦労や努力等大変感動しました。また、出版して意外なところからの反応があり、新しい気付きもいくつかありました。子どもの本の世界に新しい光が入り、当会としても課題を与えられ、活動の心構えにも含めたいと思いました。

なお、今回紹介された点字付き絵本のうち『ちびまるのぼうけん』(フィリップ・ヌート/作・絵/偕成社/2007年)、『はらぺこあおむし』(エリック・カール作/偕成社/2007年)、『しろくまちゃんのほっとけーき』(森 比左志著/こぐま社2009年)などを県立中央図書館の子ども図書研究室で閲覧することができます。

静岡県読書推進運動協議会推薦図書

☆☆☆シニア世代向け☆☆☆

『老い方上手』

上野 千鶴子 他/著(WAVE出版 2014.12)

『トットひとり』

黒柳 徹子/著(新潮社 2015.4)

『日本人にとって聖なるものとは何か

―神と自然の古代学―

上野 誠/著(中央公論社 2015.1)

『一〇三歳になってわかったこと

人生は一人でも面白い』

篠田 桃紅/著(幻冬舎 2015.4)

『余命 これからの時間を

いかに豊かに生きるか』

五木 寛之/著(祥伝社 2015.5)

『60歳からの生き方再設計』

矢部 武/著(新潮社 2014.8)

☆☆☆ヤング世代向け☆☆☆

『生き抜く力を身につける

中学生からの大学講義5』

大澤真幸 他/著(筑摩書房2015.5)

『だから生きる』

つんく♂/著(新潮社 2015.9)

『火花』

又吉 直樹/著(文藝春秋 2015.3)

『「めんどくさい」がなくなる本

読んだらスッとラクになる』

鶴田 豊和/著(フォレスト出版2015.3)

『流』

東山 彰良/著(講談社 2015.5)

『ワンダー』

R・J・パラシオ/著(ほるぷ出版 2015.7)